

# 長崎原爆遺構を歩く

県原水協常任理事 内田 武志

日本軍の魚雷製作の拠 操業を始めていた一、  
点であった「三菱兵器製 二号トンネルでは三菱の  
作所」は、戦争末期に航 工員とともに、女子挺身  
空機用九一式魚雷を作っ 隊、勤労学徒が昼夜交代  
ていた工場を疎開させる の作業に従事していまし  
ために、トンネル工場を た。四、五号トンネルは  
つくりました。高さ三 強制連行された朝鮮人労  
尺、幅四・五尺、長さ約 務者が掘削中でした。  
三百尺の穴が六本掘ら 原爆投下によって、爆  
れ、途中数力所でつなが 心から二・三キロのこの場  
っていました。 所でもトンネル内外で多

## 三菱のトンネル工場跡



兵器工場だった住吉トンネル

## 被爆者が続々と避難

⑩

数の作業員が爆風・熱線・放射線を浴び被爆しました。被害状況は今に至るも、正確には明らかではありません。傷を負わなかった人たちは、ただちに三菱兵器大橋工場などにも派遣され救護にあたりました。トンネルには、近くで被爆した人々も続々と逃げ込んできて、身動きする隙間(すきま)もなく、まさに地獄のありさまだったそうです。

トンネル東口は昨年度路工事の現場から姿を現しました。塞(ふさ)がれた入り口や鉄柵がはまって施錠されている入り口もあります。

現在、現場は工事中でトンネル内は自由には見学できない状況ですが、貴重な遺構であり市民の保存の要求も強く市当局は工事の進捗(しんちよ)く)にあわせ危険防止もして二年後には一般公開するとしています。

(おわり)